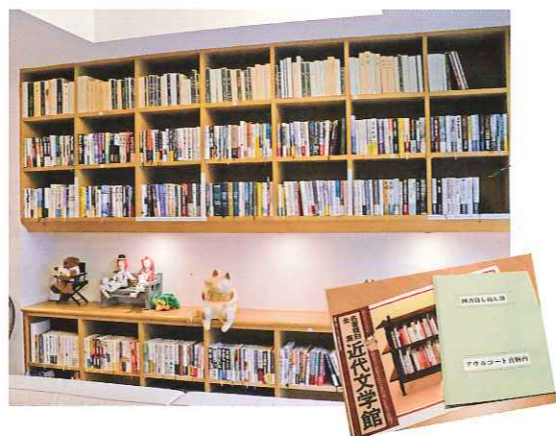


ラウンジの本

1階ラウンジ壁面の書棚いっぱいには置かれた本は、入居者様だけでなく、来訪されたご家族にも貸し出しています。ご宿泊の際に1冊読み切るといいう方、「この本を読破するのが目標」とおっしゃる方など、借りていかれる方がじわりじわりと増加。先々月には図書貸出簿

を新たに作り、貸出中の本がわかるようにして、お読みになりたい方々の利便を図っています。また、話題の本やご要望のあった本など、月に3~5冊は新刊・旧刊を購入し、所蔵を充実させています。

実はこれらの書籍は、もともと代表・武田の私蔵本でした。小説が中心ながらジャンルはさまざま、読書好きな方なら



「一度読んでみたかった」という本が1冊はあるのでは？ 読書の秋、ラウンジでお好きな1冊に出合えるといいですね。

スタッフ リレーエッセー

言葉のリレー「挨拶」

介護士 藤坂 美希

私が毎日の生活の中で大切にしていることは「挨拶」です。朝の「おはようございます」から一日が始まり、「おやすみなさい」で身体を休める。挨拶は、お互いのことを気にかけて、お互いの心をいっぱいにできる言葉のひとつだと思います。

私には、家を出てから「おはよう、行ってらっしゃい」と声をかけてくださる方がたくさんいます。とても気持ちよく晴れ晴れとした気持ちになり、今日も一日元気に頑張ろうという活力にもなります。その活力をアウルコート真駒内でみなさんにバトンリレーできるよう、私は

今日も気持ちを含めて、自分を含めて、元気に挨拶します。心のバトンがより多くの方へ届きますように……。



今日のらんこ

く〜んと接近! 接写!

アウルコートのいやし課長
キャバリアの「らんこ」です



入居相談 受付中

ご見学やご相談は随時受け付けています。
お気軽にお問い合わせください。
☎フリーダイヤル
0120-916-768

●介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)

アウルコート真駒内

〒005-0016 札幌市南区真駒内南町4丁目5-3
TEL.011-588-1122 FAX.011-588-1133

- 地下鉄南北線「真駒内」駅下車
- じょうてつバス「真駒内駅前」停で真駒内線に乗車(約5分)「南町4丁目」停下車(徒歩約4分)

アウルコート真駒内 <http://www.owlcourt.jp>



ふくろうの家 だより

その12
2009年9月

●発行/株式会社私の青い空
●編集/アウルコート真駒内広報室 〒005-0016 札幌市南区真駒内南町4丁目5-3 ☎011-588-1122



幸せの価値

代表取締役 武田 治信

私が楽しみにしている読み物に、諏訪中央病院・鎌田実名誉院長のエッセイがありました。なかでも、看護学校での講義に、45歳の脳性麻痺の女性・ふうちゃんを招いたときのお話には、私たちが福祉を考える際の重要なヒントが示されていました。

重い障害を抱えるふうちゃんは幼い頃から厳しいリハビリを続け、自由に動かない手に代えて足で字を書き、ごはんを食べるようになりました。養護学校の先生に手を使えと叱られても、誰の助けも借りないですむ足での食事を選びました。10年前からは足で書道も始めました。過去に死のうと思ったこともありましたが、飛び込む電車を待つ間の足の冷たさに“生”を感じ、もっと障害の重い友だちに自分で死ぬことをうらやましがられ、「どうせ生きるなら楽しく格好良く」と考え直すのです。

——障害があっても、病気があってもいろんな辛いことがあっても幸せはあり得る。ふうちゃんが言い切った。

「ある小学校に行った。校長先生が私を紹介してくれた。『不幸にして障害を持ったふうちゃんです』。コノヤロウと思った。初対面の他人から『不幸なふうちゃん』なんて言われる筋合いはない。不幸か幸せかは自分で決めるもの。私は手が動かなくても、足を使って、けっこう幸せに生きている」。ふうちゃんがいたずら坊主のように、再びニコッと笑った。教室中に涙が、じわじわと溢れた。——

(鎌田実「幸せか不幸せかは自分で決める」日本放送出版協会『NHKテレビテキスト きょうの健康』2008年9月号、46ページ)

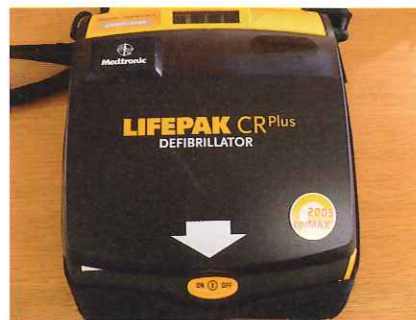
身体が不自由=不幸という先入観、短絡的な思考は根強くありますが、幸せの価値観は人によって全く異なるものなのだと、ふうちゃんは気づかせてくれました。障害をお持ちの方が、自己解決や自己決定できる世の中になることを、心から願います。

マットレスが 搬送時に大活躍

いざというとき最良の判断を瞬時に行えるようになるには、予行練習を何度も繰り返して感覚を鍛え、不測の事態に際しても自然と体や頭が動くよう訓練することが大切です。アウルのような何十名もの入居者



▲避難場所のレストランまで、入居者様役をマットレスで搬送



▲アウルのAED(自動体外式除細動器)は1階健康管理室に常備

訓練を重ねて 判断力を向上

訓練では出火場所を特定された想定表に基づき、職員が行動します。実際の火災では、まずどこで火災が起きているか自分で探して確認しなければなりません。確認後は初期消火、119番通報し、入居者様の身体状況を把握した上での避難

様が暮らす共同住宅では一層、職員の防災に対する意識が問われます。

アウルでは入居者様の安心、安全を守るために、毎年1回職員が普通救命講習を受講し、心肺蘇生法や止血法、AED(自動体外式除細動器)の使い方などを学んでいます。また、火災を想定した消防訓練は年



▲救命講習では、等身大の人形を使って、心臓マッサージなどを実践的に訓練

誘導や搬送を行います。優先順位を各自判断しなければなりません。そのためには事前にさまざまな情報や知識を頭に入れ、学ぶ必要があります。「非常災害の研修などで職員全体の意識を高めてもらい、今後は想定の出火場所を伏せた訓練を行い、より現実的な訓練を行いたい」と、防火管理者でもある森永千秋事務長は話します。

に2回実施。

今年最初の消防訓練は、6月25日(木)に行いました。札幌市消防局・南消防署の署員立ち会いのもと、居室から出火したとの想定で訓練はスタート。119番通報、消火器での消火、入居者様の避難誘導と、職員がそれぞれの持ち場でやるべきことを実行していきます。

入居者様の搬送では、毎回マットレスが活躍します。全居室のベッドに備えられたこのマットレスには、寝ている方を固定するベルト2本が両脇に、運ぶ人が持つ取手が四方に付いており、寝た状態のまま搬送することができるすぐれたものです。



▲事務室の防火設備。煙を感知した場所が表示されるパネルなどのほか、ボタンひとつで消防署に通報できる直通電話も装備

11月には今年第2回目となる消防訓練を予定しています。次回は夜間の出火を想定し、少ない職員数で規定時間内に避難誘導を終えるのが目標です。9月には訓練に向けた非常災害研修を職員対象に行います。アウルでの暮らしをより安心できるものにするために、職員は日々の備えに努めています。



安心は日々の備えから 今期も消防訓練と救命講習を実施しました

アウルの四季彩々日記

●8/7(金)

夏の一日に食べて遊んで

夏を感じる機会をと、昨年から開催している夏祭り。ティータイムに行った初回よりも今年はスケールアップし、行事の中で昼食を楽しんでいただけるよう厨房スタッフも参加。入居者様とご家族、職員で50名を超す賑わいとなりました。当日は過ごしやすいお天気で、焼き鳥やフランクフルト、ヨーヨー釣りなど中庭の模擬店も好評。車椅子の方もご自身で自由に動けるよう設営に配慮し、参加された皆さん全員がそれぞれ思い思いにお祭り気分を満喫できるひとときとなりました。



▲職員の余興、梅沢富美男「夢芝居」の歌と踊りに会場は大爆笑

▶輪投げや射的では、入居者様お一人おひとりに景品を用意



◀焼きそばや焼鳥のほか、できたて・あつあつなたこ焼きも人気



▲ボランティア「つくしの会」の皆さんによる津軽三味線の演奏



▲出し物で賑やかなレストラン。飾り付けも彩りを添え、お祭りムード満点

●7/19(日)

土用の丑の日

うなちらしは土用の丑の日の定番メニュー。行事食は早めにお知らせし、遊びに来るご予定のご家族にも召し上がっていただけるようにしています。



●7/20(月・祝)

海の日に海の幸

海の日の日食は、海にちなんだシーフードカレー。これまでカレーにあまり使われなかった具材でしたので、入居者様には新鮮に映り好評でした。

